OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	（解説）Paris Is Burning とボールルーム・カルチャー
Author(s)	ほんま, なほ; 高橋, 綾
Citation	臨床哲学ニューズレター. 2023, 5, p. 98-101
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/90081
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

特集４　生き延びることの倫理：
非規範的なジェンダー・セクシュアリティとボールルーム・カルチャー

（解説）*Paris Is Burning* とボールルーム・カルチャー

ほんま　なほ・高橋　綾

※当日に使用された解説スライドから文章のみを以下に転載します。

1. 映画 *Paris Is Burning*

- ジェニー・リヴィングストン監督、1990 年に公開されたドキュメンタリー映画（邦題「パリ、夜は眠らない」1992 年公開）
- ニューヨーク、ハーレム地区の「ボールルーム・カルチャー」（ballroom culture）を主題としてとりあげた作品として、サンダンス映画祭、ベルリン国際映画祭などの賞を受賞。
- 原題は、映画に登場するパリス・デュプリーが主催するボールの名前にちなんでつけられた。
- ボールのなかで競われるヴォーギング（Voguing）は歌手マドンナのヒット曲 Vogue でも取り上げられ注目されたが、映画もふくめて、白人による「文化の盗用」であると批判もされてきた。
- 他方、この映画は、ボールルーム・カルチャーや、LGBTQ people of color（有色の、または人種化された SOGI 非典型の人々） の文化表現を伝えるものとして、近年の TV 番組「ル・ポールのドラァグレース」「POSE」でも取り上げられ、オマージュを捧げられている。

2. ボールルーム・カルチャー とは？

- LGBTQ people of color、とくに“Black LGBTQ people”（SOGI 非典型のアフリカ系アメリカ人）が中心になって作り出した文化実践であり、いくつものカテゴリーが設けられ、審査員によるコンテストでそれぞれのパフォーマンスが競われる。≠ドラァグクイーン or ドラァグカルチャー
- ボールルーム・カルチャーを構成する３つの要素［Baily:4］
  1. 独特のジェンダーシステム（gender system）
  2.（擬似）家族・血縁構造 kinship structure　=「ハウス」
  3. 様式化したパフォーマンスが展開されるボールイベント

- ドラァグクイーン Drag Queen：ゲイ男性あるいはトランス女性が女性の格好をし、派手な衣装や化粧で行う異性装のパフォーマンスのこと、Drag は衣装を「ひきずる」という意味。アメリカでは、19 世紀末の異性愛の男女向けの仮面舞踏会 masked ball で最初に登場したと言われる。戦後、ドラァグクイーンは劇場、サパークラブでの異性愛の観客向けのショーパフォーマンスとして生き残り、1980 年代のクラブカルチャーの台頭、そこでのドラァグパフォーマーの活躍により社会的に認知されるようになる。

3. ボールルーム・カルチャーの特徴

- LGBTQ people of color（SOGI 非典型のアフリカ系・ラテン系アメリカ人）の集うコミュニティ、居場所
- ゲイ、レズビアン、バイセクシュアル、トランスジェンダー、ジェンダーノンコンフォーミング、クイアな人々など、同じアイデンティティの人だけではないいろいろな人が「ごちゃまぜ」に集う、LGBTQ people of color を中心にしたゆるやかなコミュニティ
- 対比されるもの
    1. クラブ ：異性愛者、LGB、ファッション・映画業界人・アーティストなどが、音楽と酒と踊りを求めて集まる、商業的な社交場・遊び場
    2. ゲイバー：男っぽいゲイの集まる場所、LGBTQ people of color やドラァグクイーンやトランスジェンダーは排除される場合もある（マンハッタンでは、ボールはハーレム地区、クラブ・ゲイバーはウエスト・イーストビレッジに多い）

- ボールルームは、同性愛・トランス嫌悪からの暴力・排除、ホームレスや貧困、十分に教育を受けられず、仕事も見つからないなど何重にも周縁化された LGBTQ people of color、支配的な文化のなかで、行き場や所属する集団を持たない人たちが生きのびるための居場所（ハウス、コミュニテイ）、安全な隠れ家であった［Baliy:7］

4. ボールルーム・カルチャーにおける文化実践・生きのびる知恵

1. 独特のジェンダーシステム “gender system”

   ボールルーム・カルチャーは、女／男、レズビアン／ゲイ／バイセクシュアル、ストレートなど、支配的な異性愛社会の二元的／三元的カテゴリーを超えて広がる、さまざまなジェンダー、セクシュアルな主体のあり方を含む。こうしたボールルームでのジェンダー・セクシュアルなアイデンティティは、（ハウスでの）家族役割やボールイベントでのパフォーマンスのカテゴリーの基盤となっている［Baily:4-5, 36］

① Butch Queens Up in Drag：ゲイ男性でドラァグを演じるが、ホルモンを摂らず、女として生活していないひとたち
② Femme Queens：トランスジェンダー女性で、ホルモン治療や豊胸などの外科的処置を受けている、さまざまな移行段階のひとたち
③ Butches：トランスジェンダー男性で、ホルモン治療や乳房切除などを受けている、さまざまな移行段階のひとたち、または、男性的なレズビアン、セクシュアリティにかかわらず男にみえる女たち
④ Women：生物学的（シスジェンダー）女性で女として生活するレズビアン、異性愛者、あるいはクィアのひとたち
⑤ Men/Trade：生物学的男性で自分のことを異性愛者だと認識している男性。トランスジェンダー女性の恋人やお金をもらって、あるいは遊びで男性とセックスをするストレート男性（Trade）など
⑥ Butch Queens：生物学的男性でゲイまたはバイセクシュアル、男っぽかったり、過剰に男性性を強調したり、あるいは女っぽかったりする

2. Gaylect

LGBTQ のスラング、独特の言語表現。Femme/Butch は、Women/Man、Female/Male とは異なる「女っぽさ」「男っぽさ」のニュアンスを指す。異性愛関係を模倣していると批判されることもあるが、異性愛社会のジェンダー、セクシュアリティのカテゴリーをずらし変奏させる、LGBTQ コミュニティ独特のジェンダー・セクシュアルな主体の規定であるともいえる。

3. Categories

「男にみえる」「女にみえる」といったジェンダー表現だけでなく、出演者の希望に沿ったさまざまな「部門」が設けられた。例「エグゼクティブ」「大学生」「女学生」「豊満なからだ」「はじめて女装するブッチクイーン」「ヒールをはいたブッチクイーン」など。

4. Realness

ボールでのパフォーマンスのカテゴリーでは、“Realness”（本物らしさ）が追求される。過剰な女性性を演じるドラァグクイーンとは異なり、ボールルームでは、「本物の女／男らしく見える」ことや、「白人のエスタブリッシュメント（会社役員、軍人、大学生）に見えること」、“Gender/Racial Realness” [Baily:55] が競われる。

5. House（ハウス）
   ハウスマザーやハウスファーザーが、自分のハウスのチルドレンの衣食住、生活の面倒をみる「擬似家族」。ボールイベントでは、それぞれのハウスが Voguing やパフォーマンスで競い合う。
   - 相互扶助を重視するアフリカ系家族がベースにある。
   - LGBTQ の若者のための“chosen family” ⇔ “given family”

参考文献

Marlon M. Baily, *Butch Queens Up In Pumps: Gender, Performance, and Ballroom Culture in Detroit*, University Of Michigan, 2013.

Ester Newton, *Mother Camp Female: Impersonator in America*, University of Chicago Press, 1972.

（ほんま・なほ、たかはし・あや）